

平成26年度

林業事業体等（造林・素材生産）
との意見交換会

平成27年3月

近畿中国森林管理局 森林整備部 森林整備課



国民の森林・国有林

近畿中国森林管理局

KINKI・CHUGOKU Regional Forest Office

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

1

平成27年度の造林事業

金額：百万円

区分	新植	下刈	つる切	除伐
平成26年度 当初	103	42	0	4
平成27年度 要望額	170	47	11	131

※ 予算額及び要望額については、関連事業経費を含む。



国民の森林・国有林

近畿中国森林管理局

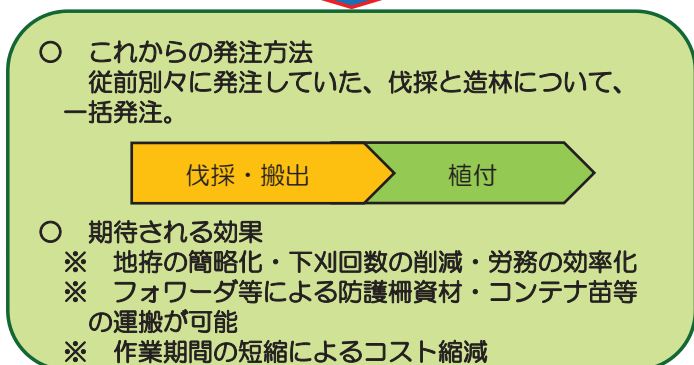
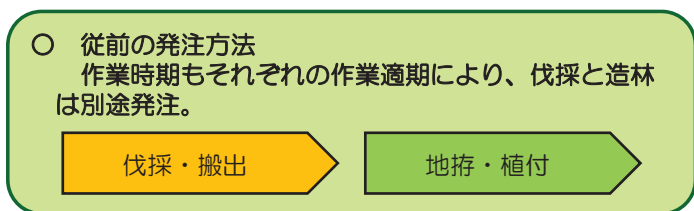
KINKI・CHUGOKU Regional Forest Office

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

2

国有林における低コスト造林と施業等の共同化について

- 地拵コスト削減のねらい(伐採・造林の一括発注)
作業適期が異なることから、これまで別事業となっていた伐採と造林を一括発注にすることにより、各工程の効率化によるコスト削減を図る。



一括発注の実績

区分	年度別実行面積 (ha)		
	24	25	26 (見込み)
兵庫署	1.21	0.82	4.15
島根署		5.11	
岡山署		5.40	10.45
広島北部署		4.26	
広島署			5.15
山口所			5.08
実行計	1.21	15.59	24.83
総計		41.63	

※ 平成24年度から平成26年度までに一括発注による植付を41.63 ha実施した。
今後の見通しとしては、平成25年度、平成26年度(対前年度比約159%)の実績から考えると、一括発注が増加すると推測される。

低コスト造林システム例



※ 一貫作業システムによるメリット

- ① 事業期間の短縮が可能となる。
- ② グラブ等を利用し、枝条の整理を行えることから、人力による地拵コストが削減できる。
- ③ フォワーダ等を利用し、造林資材（苗木・防護柵等）の運搬が行えることから、運搬コストが削減できる。
- ①～③により事業コストが削減できる。



国民の森林・国有林

近畿中国森林管理局

KINKI・CHUGOKU Regional Forest Office

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

5

コンテナ苗の植付方法



※ コンテナ苗の植付におけるメリット

- ① 専用器具を使用し植付を行うことで、鍬による植栽より技術を伴わない。
- ② 普通苗に比べ植付工程が少ないので労力の軽減となる。
- ③ 普通苗に比べ1日当たりの本数が多いく植付できるため工期の短縮となる。
- ④ コンテナ苗は植栽適期が長いので、年間を通じて植付作業が行える。

植穴とコンテナ苗が密着する程度に踏固め、地表物を被せる



植穴を踏み固める

国民の森林・国有林

近畿中国森林管理局

KINKI・CHUGOKU Regional Forest Office

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

6

普通苗とコンテナ苗の植付諸元比較

※参考資料： 伐採・植付一貫作業下でのコンテナ苗等の活着・育成実証研究の実態と課題
(森林総合研究所 関西支所 奥田史郎 氏) より引用

区分	植栽効率 (秒/本)	植栽に要する 総時間 (日/ha/人)
普通苗	58	5.6
コンテナ苗	48	4.7
	人工差	0.9

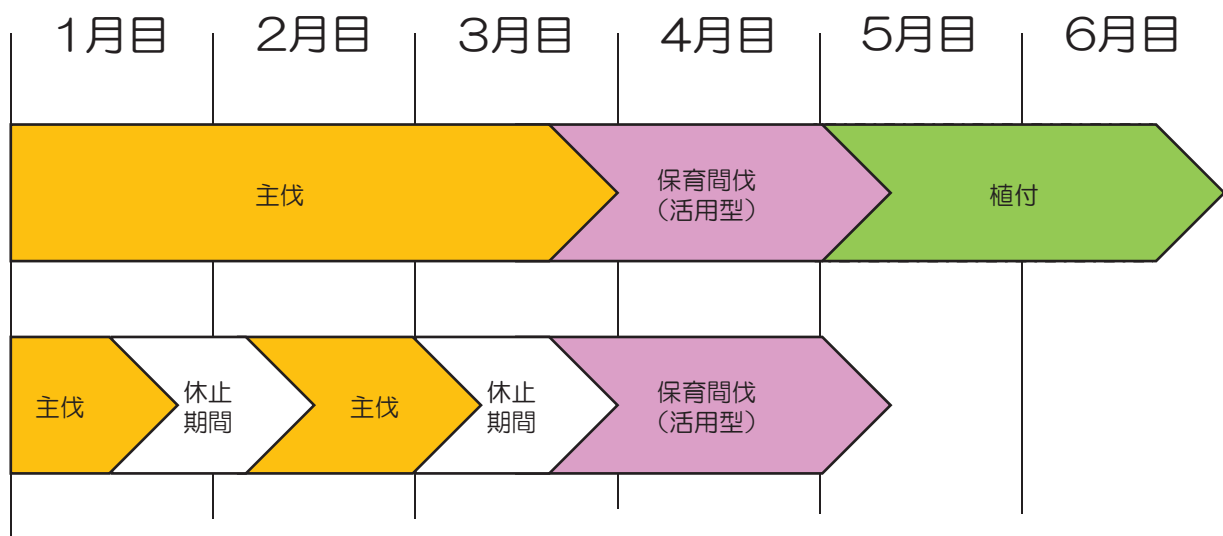
※ 計算条件として、①植付作業時間を1日6時間、②ha当たりの植付本数を2100本とし算出した。

※ コンテナ苗の植付におけるメリット

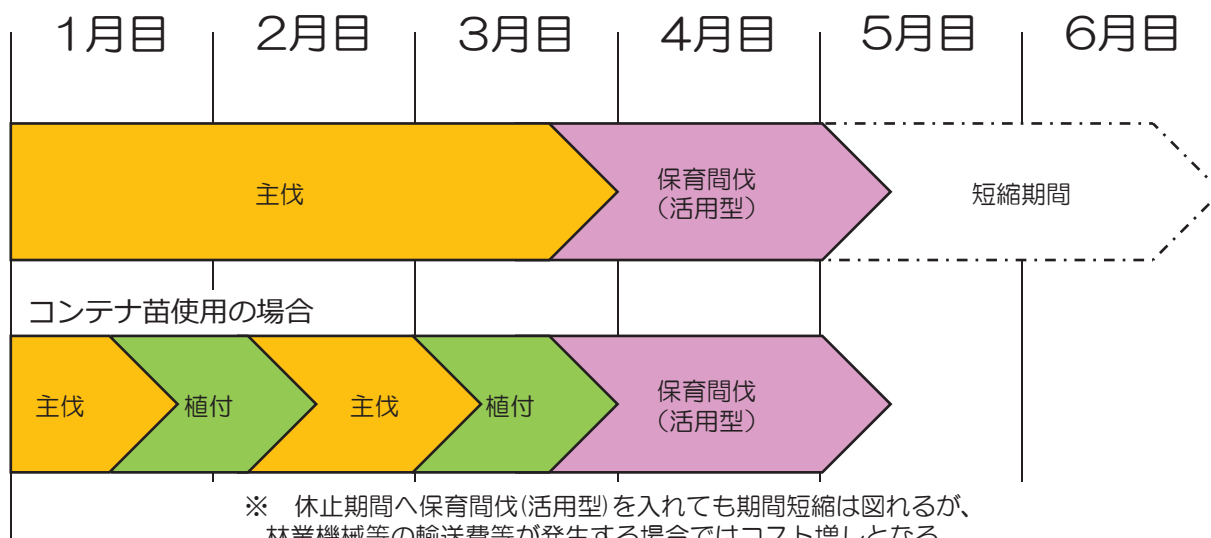
- コンテナ苗を植栽する方が簡単で早い。
- 1ha当たりの植付には、普通苗が5.6人工であるのに対し、コンテナ苗が4.7人工で実行可能。
- 植栽時期を選ばないこともあり弾力的な労務配置が可能。

普通苗とコンテナ苗の植付コスト比較

主伐作業が事業予定より早く進捗している。
さあ、皆様ならコスト面を考え休止期間をどう活用しますか？



普通苗とコンテナ苗の植付コスト比較



※ コンテナ苗の植付におけるメリット

コンテナ苗は植栽時期を選ばないことから、弾力的な労務配置が可能となり、事業期間の短縮が可能となる。



国民の森林・国有林

近畿中国森林管理局

KINKI・CHUGOKU Regional Forest Office

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

9

一括発注における優位点と注意点

優位点

- ① 素材生産で使用する林業機械(グラップル等)を利用して苗木ほか資材の運搬が行えることから、作業員の労力軽減となる。
- ② コンテナ苗を使用することで、事業の進捗状況に応じて植付が実施可能となり、事業期間の短縮が可能となる。
- ③ コンテナ苗を植栽することによって、わずかではあるが0.9人工/haの労力軽減となる。
- ④ 年間を通じて事業を計画的に実行できることから雇用の安定化が図りやすい。

注意点

- ① 共同事業体の場合、「素材生産事業」と「造林」を行う事業者間の連携が重要となる。
- ② 素材生産事業の進捗状況により植栽時期が決まるため、苗木の生産事業体とのきめ細やかな調整が必要となる。



国民の森林・国有林

近畿中国森林管理局

KINKI・CHUGOKU Regional Forest Office

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

10

事業者の皆様をお願いしたいこと

- ① 監督員への「報告」
請負現地の状況等に变化があった場合は、速やかに報告をお願いします。
- ② 監督員との「連絡」
現場代理人は監督員と常に連絡が取れる体制を整え、現地案内後、入山・中断・作業完了する場合には、監督員へ連絡をお願いします。
(※ 監督員不在の場合は署等へ連絡)
- ③ 監督員への「相談」
現地の作業方法について、仕様書等で判断に迷ったときは監督員へ相談をお願いします。

監督員との

「報・連・相（ほうれんそう）」が最も重要！

(※ 事業成績評定のプロセスチェックに反映されます。)

※ 平成27年度は省庁統一資格の更新年度です。
詳細はホームページにてご確認ください。

<http://www.chotatujoho.go.jp/va/com/ShikakuTop.html>



国民の森林・国有林

近畿中国森林管理局

KINKI・CHUGOKU Regional Forest Office

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

11



ご静聴ありがとうございました。

KINKI・CHUGOKU Regional Forest Office

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

12